

延岡市地方創生有識者会議 委員から意見一覧

No	該当箇所	ご意見・ご質問など	担当課
1	資料① 1ページ 「雇用創出プロジェクト」 施策 1-①、②	企業誘致については、H31年までの目標30件に対して実績21件・達成率70%、これに伴う新規雇用も目標420人に対して実績344人・達成率81.9%と順調な進捗状況となっているようだが、工場以外の企業進出(複合施設・飲食店・物流拠点等)においては、幹線道路沿いにまとまった用地がない為、進出できない状況にある。例えば県道16号線沿いの延岡消防本部近隣、延岡インターチェンジ近隣の土地(農地)の規制緩和などの検討はされているのか教えていただきたい。	都市計画課
2	資料① 3ページ「雇用創出プロジェクト」施策 1-⑤と10ページ「移住・定住推進プロジェクト」施策 4-①の関連性について	1. 「地元企業への就職に繋がった人数」というKPIが、「雇用創出」と「移住・定住推進」の2つのプロジェクトに分かれている理由などについて教えていただきたい。 2. 3ページ施策1-⑤の目標値「370人」、H27年度～29年度の実績値について、学生を含んでいるのでしょうか。また、就職説明会やセミナー参加者数(H27年度～29年度)について教えていただきたい。 3. 10ページ施策4-①の目標値「95人」は5年間の目標でしょうか。また、就職説明会への参加者数(H27年度～29年度)を教えいただきたい。	工業振興課
3	資料① 10ページ 「移住・定住推進プロジェクト」 施策 1-⑤	祖母傾山系ユネスコエコパークを活用した観光客誘致について、まず「観光客」というくくりが漠然としてよくわからない。 H29年度実績値が前年より増えた主な理由の一つとして「大崩山登山客等の増」とあるが、現実問題として登山客数が把握できているのか疑問である。何を以て「増」としているのか根拠を教えていただきたい。	北川総合支所 地域振興課
4	資料① 10ページ 「移住・定住推進プロジェクト」 施策 1-⑤	祖母傾山系ユネスコエコパークを活用した観光客誘致について、以下内容を検討してはいかがでしょうか。 ・道の駅北川はゆまにボランティアガイドを駐在させる。 ・大崩山、神さん山、祝子川温泉美人の湯まで距離があるため、途中で休憩する場所が必要。また、周辺に民泊があると良い。	北川総合支所 地域振興課

延岡市地方創生有識者会議 委員から意見一覧

No	該当箇所	ご意見・ご質問など	担当課
5	資料① 10ページ 「移住・定住推進プロジェクト」 施策 1-⑥	延岡新時代シティプロモーションの推進について、動画の再生回数100万回という目標値がどれほどの意味を持つのか知りたい。 再生回数が増えれば、具体的にどんなメリットがあるのか。シティプロモーションは地域住民の愛着度の形成という側面もあるが、制作した動画2本は果たして目的を達したのか、費用対効果の面でどうなのか教えていただきたい。	企画課
6	資料① 「移住・定住推進プロジェクト」	三北が合併して10年経過し、広大な町域を災害から守るためには、人材確保、人材育成が長期にわたり必要。2060年(今から42年後)に、延岡の人口、9万人を維持するのであれば、今の高校生たちが、大学卒業し、就職し定住して定年を迎える60歳近くになる頃の話になるので、地元で定住できる職の安定と雇用と生活環境を整備することが急務と考える。	企画課 工業振興課
7	資料① 15ページ 「持続可能なまちづくりプロジェクト」 施策 2-①、②	「複合施設の利用者数」について、参考データとして、4～6月の数値があれば示していただきたい。 「駅まちエリアの新規出店」について、現在達成率40%であるが、今後の推進策として、どのような取り組みが行われるのか教えていただきたい。	商業・駅まち振興課
8	資料② 交付金事業 「食」と「連携」による東九州 バスク化構想推進事業～海 と大地を一皿に～	東九州バスク化構想は、延岡市と佐伯市の県境を越えた「食」を活かした地方創生の取り組みとして期待が持てる。この取り組みは圏域を越えた「定住自立圏構想」にも関連し注目される取り組みである。本構想は、生産者と料理人の連携、第一次産業の推進、地域の魅力アップ等に効果があり、本市の「食」のまちづくりを推進するための総合的な事業であり、引き続き佐伯市との連携のもと推進して欲しい。 なお、「バスク化構想」という名称が市民に浸透していない感もあり、さらにPRすることが必要である。	企画課
9	資料② 交付金事業 「食」と「連携」による東九州 バスク化構想推進事業～海 と大地を一皿に～	世界的に美食のまちとして知られる「バスク地方」の名を取り入れ、「食」をテーマにしたイベント「エンジン01」などで大々的にスタートした『東九州バスク化構想』であるが、一般の知名度が低いのではないかと懸念している。知名度を上げるための今後のプロモーション計画を伺いたい。 また、この事業には、佐伯市との「連携」が必須であると思うが、私感であるが、佐伯市と延岡市の温度差を感じる。この事業の佐伯市での具体的な取り組みや実績を教えていただきたい。	企画課 観光戦略課

延岡市地方創生有識者会議 委員から意見一覧

No	該当箇所	ご意見・ご質問など	担当課
10	資料② 交付金事業 「食」と「連携」による東九州 バスク化構想推進事業～海 と大地を一皿に～	3ページに「6月補正予算には・・・略・・・延岡の農産物や水産物の県外取引をより確実に広げていくための事業を盛り込んでいる」とあるがどのような事業か。 また、「食」に関するさまざまなイベントを企画する中で、事業者や生産者にとって最大の関心事は「売り上げ」である。市全体として「如何にして外貨を稼ぎ、地域を潤わせるか」が最終着地点だと思う。その方策の一つとして官民連携による「ビジネス・マッチング」の場を設けてはどうか。民間だけの取り組みでは費用等の問題もあるので、相互連携のスキーム(バイヤーとの商談会や商品発表会等)を構築し取り組むことを提案したい。この取り組みが「東九州バスク化構想」の取り組みにも効果的と考える。	企画課
11	資料② 交付金事業 地域経済の活力とソーシャル キャピタルの同時実現による 「自立・持続可能なまちづく り」プロジェクト	本年4月「エンクロス」がオープンし、駅まちエリア内での市民活動が活発化している今こそ、駅前の再生を図る絶好の機会である。 宮崎市、都城市、日向市の中心市街地活性化との大きな違いは、「街の顔」として、駅前の活性化に取り組んでいることである。「エンクロス」から駅前商店街に人の流れを創出し、駅前の資産価値を高め、市外からの新規出店の機運を醸成する必要がある。駅前再開発は必須条件であり、この点に重点を置き、事業を推進して欲しい。	商業・駅まち振興課
12	資料② 交付金事業 地域経済の活力とソーシャル キャピタルの同時実現による 「自立・持続可能なまちづく り」プロジェクト	前回会議で、「駅まちマネジメント委員会」の構成員の年代性別について質問させていただいたところ、全て男性で、年代も平均年齢が高いとのことで、若手グループの結成に取り組んでいるとお話であった。その後、若手グループの結成等(偏りのない性別、年代で構成されている委員会)は、どのように進んだのか、教えていただきたい。	商業・駅まち振興課